



えいのまる

令和5年度の2学期が終わりました

令和5年があっという間に終わろうとしています。5月より新型コロナウイルスが、2類から5類へ引き下げられ、通常の生活に戻ってきました。インフルエンザやアデノウイルスによる感染症も広がり学級閉鎖も数クラス出ましたが、活動範囲は広がってきました。

そして、コロナを機に、学校の在り方を見直し、新しい時代に求められる新しい学校文化を創出する教育も起こり始めています。今求められるものは児童自らのエージェンシーです。

児童生徒のエージェンシーは、世界38ヶ国が加盟しているOECD（経済協力開発機構）が2019年に出した「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」の中で「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義されています。

子どもたちが自分の人生や社会がより良いものになるような目標を設定し、友達や先生、地域の人などさまざまな人たちの力を借りながら、最後まで責任を持って目標を達成する力のことを意味しています。

なんと素敵な目標でしょうか。自らの頭で、今必要とされることを見抜き、どうやって解決するのか考え、行動する個別の能力の育成と、様々な能力をもった人々が協力してやり遂げるコミュ（協働）力を学校教育の中で築き上げようとする時代に突入したのです。

本校が他校に先んじて行おうとしているのは、まさにこのエージェンシーの育成です。新しい時代を担う子どもたちが自らの力で自らの人生を切り拓く力を育成する教育の始まりです。令和6年は、さらなる体験活動や生徒主体の行事・学習の充実を目指します。

◎ 価値ある冬休みをお過ごし下さい

日本の年の瀬や正月は、家族が集まり、協力して一年を締めくくり、新しい年を迎える伝統行事です。永犬丸小学校の「父の会」の皆様が先日子どもたちのために作ってくれた門松は、まさに新年の歳神様をお迎えして、子どもたちがみんな笑顔で幸せ（スマイル&ハッピー）に過ごせるように願いを込めて作られたものです。

家族での大掃除やお年玉、書初め、すごろく、新年の挨拶、おせち料理やお雑煮、鏡餅なども、その地方、地方で意味合いをもち、家族のきずなを高めるものです。

一年の締めくくりや新年の幕開けを家族で過ごす時間を設け、飾り物の意味を調べ、語らいながら、新たな気持ちで新年をお迎えしてほしいと願います。

◎ 冬休みの生活がんばりカード

冬休みの生活習慣の確立と親子の対話増を目指し、冬休みに入ってから3日間と、始業式前の3日間に生活がんばりカードに取り組みます。このカードは、いつ、どこで、何をどうするか、自ら決めて、取り組み、振り返ることができるようにしています。

一番力を入れているのは、親子で毎日振り返る項目です。保護者の方から、次のような相談をよく受けます。

「大切な話をしようとするどどこかに逃げてしまう」

「ゲームを長時間するのを止められない」

「家族の一員としてお手伝いをさせたいが暇がない」

子どもは、本当は一人でゲームをして楽しむよりも、家族と語らい、一緒に何かをして褒めてもらうことを楽しみにしているのです。苦しいことも褒められると頑張れる。親の肯定的な言葉は、何よりも子どもに自信とやる気を与えます。このカードを上手に使って子どもの成長につなげてください。

◎ 3学期と来年度の予定

☆3学期

・学習参観日の連絡（年間行事17日から変更しています）

2月14日(水) 2校時2年、3・4校時4年

2月15日(木) 2校時3年、3・4校時5年

2月16日(金) 2校時1年、3・4校時6年

今年は平日に行います。

・授業時数調整

市教委より、授業時数が標準より超過している学校は3学期に調整する旨の連絡が来ています。3年～6年生までの毎週金曜日6校時をカットするなどの方策を考えています。（始業式に連絡します）

☆令和6年度

以下の内容について検討しています。

・2学期制の検討

・教室移動

◎ 永犬丸児童アンケート集計結果

数値が高かったトップ3

No.1 : 友達にやさしくできた 91.5%

No.2 : みんなと話し合いながら学習を進めた 89.3%

No.2 : タブレットを使ってたくさん学習した 89.3%

数値が低かったアンダー3

No.1 : 自分には良いところがある 77.7%

No.2 : 失敗を恐れずに挑戦した 80.9%

No.3 : 家庭のきまりを守って生活した 83.5%

自分には良いところがあることを、肯定的にとらえられない子が22.3%いるという結果でした。自分に厳しい子が多いとも言えますが、「頑張ったよ」と胸を張って言える子になってもらいたいですね。

子どもに「好きなこと」を見つけさせる4つの方法

加藤紀子：教育ライター／ジャーナリスト

『子育てベスト100 最先端の新常識×子どもに一番大事なこと』より

スパルタより「情熱」がカギ

ハーバード大学トニー・ワグナー博士は、「若きビル・ゲイツやジョブズ、ザッカーバーグには、脅したりおだてたりするスパルタ式の厳しい母親はいなかった。」「彼らにあったのは情熱だ」といっています。

また、臨床心理学者のジョセフ・バーゴ博士は、お金や名声を熱望している人よりも、純粋に好きなことに打ち込んでいる人のほうが成功しやすいといっています。

時間を忘れて没頭するほどの情熱は、「もっと知りたい」「上手になりたい」という気持ちを引き出し、そのためにはどうすべきかと考えを深める力を伸ばしていくのです。では、子どもが「好きなこと」を見つけるにはどうすればいいでしょうか？

【その1】「したことのないこと」に注目する

子どもに「好きなことはなにか」と聞いても、自分には好きなことがないと言うかもしれません。しかしイギリス・ウォーリック大学のケン・ロビンソン名誉教授は、これは「機会(チャンス)の有無」にかかっているといっています。

いま子どもにとって夢中になれることがないとしたら、一度もやったことのない分野に対して心をオープンにし、積極的にトライしてみることをロビンソン名誉教授は勧めています。

【その2】子どもの行動を知る

また、ロビンソン名誉教授は、「好きなこと」を見つけるには、日常の行動パターンを「見える化」するとよいといっています。学校、習い事、遊び、食事など、ざっくりと書き出します。さらに学校の時間割、習い事の種類の、遊びの時間に何をやっているかなど、その中身を具体的に書いていきます。

【その3】「夢中になっていること」を見つける

そうして書いた項目のそれぞれに対して、「好き」「嫌いではない」「嫌い」で色分けをします。何をしているときにワクワクするか、楽しくてしかたないのか。子どもの「好き」を探します。

ハーバード・ビジネス・スクールのテレサ・アマビル名誉教授は、素晴らしい才能をもってはいても何事も達成しない人はたくさんいるといっています。

大人も子どもも心の内から湧き出る強いモチベーションがあるとき、ベストを尽くして達成をめざします。達成と情熱には強い関連性があるとアマビルはいっています。

【その4】ひとつのことに縛られない

国際数学オリンピックで日本人女性初の金メダルを獲得した中島さち子氏は、いまや「各自が自分の専門の穴をひたすら掘り下げていた時代」から、「違う分野からのアプローチや他分野の専門家とのコラボレーションによって新しい知見が生み出される時代」に変わったと語ります。

複数の分野でさまざまに脳を使って、違ったものの見方を取り入れていく経験は、イノベーションの原体験になります。「好きなこと」をひとつだけに絞らず、複数の分野を掘り下げ、横断していくことが、これからの教育に求められると中島氏はいっています。

出典は、<https://diamond.jp/articles/-/322765>
『子育てベスト100—「最先端の新常識×子どもに一番大事なこと」が1冊で全部丸わかり』からの抜粋です

